

【中学校第2学年・理科「気象とその変化」】日本の気象

1 「日本の気象」の目標

- ・天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けて理解する。
- ・気象衛星画像や調査記録などから、日本の気象を日本付近の大気の様子や海洋の影響に関連付けて理解する。

2 本時

(1) 本時の目標

- ・天気の予想に進んで関わり、見通しをもって粘り強く取り組み、探究しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

(2) ルーブリック (評価基準)

評価基準	生徒の学習状況
	主体的に学習に取り組む態度
◎「十分満足できる」状況	天気の予想に進んで関わり、よりよい予想のために見通しをもって粘り強く取り組むとともに、探究の過程を振り返り、妥当性を検討しながら探究しようとしている。
○「おおむね満足できる」状況	天気の予想に進んで関わり、見通しをもって粘り強く取り組み、探究しようとしている。
△「おおむね満足できる」状況にするための手立て	単なる憶測ではなく根拠にもとづいて予想できるよう、必要な既習事項について示し、天気図や雲画像の見方を支援する。

(3) 本時の展開 (6/8)

過程 (分)	○主な学習活動 [] 活動形態 ・予想される生徒の発言等	◇教師の主な働きかけ *留意点	■評価基準 () 評価方法 ▲努力を要する生徒への手立て
導入 (10分)	○天気図を読み取る。[協] ・低気圧：天気が悪い ・寒冷前線：短時間に激しい雨 ・温暖前線：長時間に穏やかな雨 ・前線の間：晴れて温かい ○本時の課題を知る。 (根拠を明確にして) 天気予報をしよう！	◇天気図を提示し、既習事項を確認する。 ◇本時の課題を提示する 「この天気図の6時間後の各地の天気を予報しよう」	○学習課題に対して使える知識の想起 ・学習を進めるに当たって生徒全員が必要とする知識を確認し、学習(活用)に見通しをもたせるとともに、本時の学習活動への不安を解消し、主体的な活動を促す。
	○天気予報をするために、活用したい既習事項を確認する。[個] ・天気の変化：西→東 ・低気圧は閉塞前線に発達する ・天気図の読み取りで確認済内容 ・雲画像 ・風向き	◇ジャムボードを活用して既習事項を振り返る。	○自分の振り返りの検討 ・「振り返りシート」を読み直し、自己の学びを自覚させ、それと課題とを関連させるとともに、自己の学習方法を振り返ることで粘り強く取り組めるようにする。

<p>展開 (30分)</p>	<p>○課題の天気図（天気図、雲画像、各地域の天気記載）の各地域の天気を予測する。[協]</p> <p>①前線の変化を予想する</p> <p>②前線の天気を想起する（雲画像と照合する）</p> <p>③天気を予想する</p> <p>○中間発表を行う。ある地域の天気予報とその根拠を発表する [協]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館：晴れ←寒冷前線が通り過ぎて ・室蘭：くもり←寒冷前線の雲が残っている ・札幌：晴れ←寒冷前線が通り過ぎて ・網走：雨←寒冷前線により ・釧路：雨←寒冷前線により ・稚内：雨←低気圧の中心の近いから <p>○天気予報を練り直す。[協]</p>	<p>◇課題の天気図を提示し、低気圧の中心の変化について触れる。</p> <p>*天気が西→東に変化していることを確認する</p> <p>◇各班にある地域の天気予報を発表させる。</p> <p>*根拠をもって発表させる</p> <p>①前線の配置がどうか</p> <p>②何のどんな影響でどんな天気になるか</p> <p>*根拠と予想の整合性があればよい。</p>	<p>■天気の予想に進んで関わり、見通しをもって粘り強く取り組み、探究しようとする。(発言)</p> <p>▲予想した理由を問い、既習事項と結びつけさせる。</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>○天気予報をスライドにまとめる。[個]</p>	<p>◇スライドに課題に対する自分の考えを整理させるとともに、協働的な学びについて振り返る。</p> <p>◇次時は気象予報士のように解説する発表会を行うことの予告をする。</p>	<p>○協働的な振り返り ・班活動で学習して得られた成果について全体で確認し、それを個に返すことで、学習の成果を実感させ、深い学びにつながるようにする。</p>